【学校教育目標】　夢に向かって　自ら学ぶ　豊かで　たくましい生徒

黒西中だより

TEL　048-768-5454
心のホット相談室　TEL　048-764-1110
http://kuronishichu.style.coocan.jp/

第　９　号
令和７年１月８日

生徒数		
１年	８５名	３学級
２年	８３名	３学級
３年	９２名	３学級
４組	３名	１学級
５組	２名	１学級
合計	２６５名	11学級

明けましておめでとうございます～昭和１００年に６０歳になるにあたって～

校長　槍田　光東

明けましておめでとうございます。令和７年が始まりました。生徒のみなさんにとって、保護者の皆様にとって、地域の皆様にとって、たくさんの幸せが舞い込む良き年になるようお祈り申し上げます。

今年は昭和で言うと昭和１００年です。間違いないことに自信があります。なぜかというと私は昭和４０年生まれで今年の９月で６０歳を迎えるからです。４０＋６０＝１００。つまり昭和１００年です。まさか自分に６０歳になる時が来るなんて子どもの頃は想像もしていませんでした。６０歳と言えば生まれてから干支が一回りまわるということです。今年の干支である「乙巳（きのとみ）」は６０年に１回来るわけで、私は６０年前の「乙巳」の９月に生まれたということです。私の母は「光東は嵐の朝に生まれた。」と自分の生まれた時のことを話してくれました。もちろん、私にその時の記憶はありません。６０歳と言うとその歳の方には大変に失礼な言い方ですが、子どもの頃の私にとってはかなりのお年寄りという感覚でした。「お年寄りというものは、昔のことなどすべて忘れてしまっていて、毎日を生きているのだろうなあ。」と勝手に想像していました。しかし、今の自分を考えると、昔のことをけっこう覚えていて、「様々な経験を重ねてきましたが根本的には子どもの頃の自分と何一つ変わっていないところがたくさんある。成長できていないところがたくさんある。」と改めて感じます。おそらく、他の６０歳になられた方々もご自身が想像していた６０歳とは、違った感覚を持たれたと想像します。

記憶と言えば昨日食べた物をすぐに思い出すことができなかったり人の名前が思い出せなかったりすることが多々ある一方、中学生の時のことが何かの拍子で頭にふとよみがえってくることがあります。入学時先生といる時間よりも友達といる時間が増え、いきなり広がった同級生との世界に不安を感じたこと。別の小学校から来た同級生との感覚の違いに戸惑ったこと。中学校３年の先輩がとてつもなく大人に見えたこと。楽しかった英語の授業のこと。おいしかった給食のこと。給食当番でクラス全員の瓶牛乳を運ぶのが重かったこと。部活動でひたすら垣根の周りを走って辛かったこと。自分達の代になり必死にレギュラー目指して頑張ったこと。新人戦で自分がホームにヘッドスライディングしてサヨナラ勝ちして嬉しかったこと。副部長として地区優勝し嬉しかったこと。また同時にほっとしたこと。春の大会地区予選決勝で１点差で勝っていたのに最終回逆転サヨナラ負けして呆然としたこと。夜に家で勉強していて一息つこうと外に出た時、辺りが明るくなるほど緑色に輝いて落ちた流れ星を見て不思議な気持ちになったこと等。中学校時代のできごとが時には鮮明に、時にはぼんやりと良い思い出も残念だった思い出も懐かしく様々な感情と共に蘇ってきます。それは一生の中で中学生時代が一番多感で様々な経験を繊細に感じ、ストレートに受け止め、悩みながら少しずつ成長していった時期だったからだと今思います。さらに中学生時代は学習したことが恐ろしく早く頭に入り、いつまでも忘れないようにインプットされる時期だったとも思います。ちなみに私は中学校の時に自分で英語の歌詞にカタカナを振って覚えた“Let It Be”や“明日に架ける橋”等、今でも不思議なくらい覚えています。

６０歳を前にして振り返ると、様々な出来事に一喜一憂しながら何歳になっても目標をもち前向きに進み続けることの大切さを感じます。生徒のみなさんは自分が６０歳になった姿を今は想像できないでしょう。６０歳になった時に今私が書いていることに共感するかもしれません。中学校時代に成功したこと、挫折したこと、嬉しかったこと、悲しかったこと等、全てが成長の糧となります。一日一日の時間を大切にして自分の良さを失わず、時にはリラックスし、自分の描く未来へ前向きにコツコツ歩んでいくことが明日への成長に必ず繋がることを６０歳になる大人として伝えたいと思います。昭和１００年となる令和７年もそんな思いを胸に日々努力することを新年に誓います。

保護者の皆様、地域の皆様、本校の教育活動に対して、多大なるご理解とご支援とご協力をいただきまして、大変にありがとうございます。新年もどうぞよろしくお願いいたします。